

花が咲く、物語が始まる、伊丹のまちから

—桜・バラ・南京桃・梅—  
伊丹を彩る4つの花の物語



itami  
伊丹市

伊丹市 都市創造部 都市企画室

〒664-8503 兵庫県伊丹市千櫛1丁目1番地 TEL:072-784-8068 (直通)

<http://www.city.itami.hyogo.jp/>

■ワシントンの桜は伊丹東野産  
明治の終わり頃、アメリカでは米日経験のある学者や作家たちの間で、日本の桜を讃える声が相次いでいました。「アメリカの人たちにもあの美しい桜を見せたい。」  
当時の大統領夫人もこれに賛同し、ついには日本政府も動き出しました。  
桜の寄贈を託された尾崎東京市長は早速、桜二千本をアメリカに贈りましたが、ワシントンに到着した頃には、おびただしい数の害虫が発生し、焼却を余儀なくされました。  
再び計画を進めるため、尾崎東京市長は農商務省の古在農学博士に、害虫に強い桜の苗木の調達を依頼しました。博士は当時、日本で一番有名な静岡県にある興津園芸試験場で接

ぎ木という方法で、丈夫な苗木を育てる計画を打ち出しました。穂木は東京の荒川堤の桜並木から取り、そして、病気や害虫の少ない台木づくりは、植木の産地として高い園芸技術をもつ伊丹の東野村に託されました。  
久保武兵衛さんが中心となり、村中の人々の努力のかいあって丈夫な台木が作られ、明治四三年（一九一〇年）出荷されました。  
こうして興津園芸試験場で接ぎ木された苗木六〇四〇本は、明治四五年（一九一二年）、横浜港から出港され、無事アメリカに到着しました。一本も病気がない苗木に検査官も感嘆の声を上げたそうです。  
日米親善の証である桜はその後、多くの人々の熱意によって守られ、見事に成長していきました。



日本のさくら

毎年ポトマック公園で行われる「桜まつり」では大統領夫人による植樹式や、さくら女王のパレードなどがあり、大勢の人たちでにぎわっています。  
今や桜はワシントン市民にとって、なくてはならない存在となりました。



世界的に有名なワシントンポトマック公園の桜。  
この桜のルーツ、  
実は伊丹にあるのです。

桜

ワシントンポトマック公園





瑞ヶ池公園



●市バス：J内伊丹駅(1)のりばより、阪急伊丹駅(1)のりば(2)經由鶴岡園地、北野、荻野南行きで約15分間ヶ池下車すぐ

瑞ヶ池公園の桜を育てる会の皆さんによる剪定



### ■地域で支えられて

伊丹市の桜の公園で知られている瑞ヶ池公園では「瑞ヶ池公園の桜を育てる会」(三菱電機株、神ルネサステクノロジーの従業員の方々を中心としたボランティア組織)により、二十年以上に亘って、休むことなく維持・管理が続けられています。

桜の物語は、日本でもアメリカでも桜を愛する人々の絶え間ない努力によってこれからも続いていくことでしょう。

### ■ハナミズキの返礼と里帰り桜

日米親善の交流はさらに続きます。大正四年(一九一五年)、アメリカ側から感謝のしるしとして、ハナミズキが日本に届けられました。花ことばは「返礼」と言われるハナミズキは、アメリカでは最も愛される木のひとつです。



伊丹に届けられたものは枯れてしまい、その他のハナミズキも行方不明になってしまいました。しかし、その後の調査で、東京都立園芸高校に原木が

現在していることが判明し、平成十一年(一九九九年)その子孫樹が返礼のハナミズキとして再び伊丹市立荻野小学校に植樹され、今では三メートルを超える程の大きさに成長しています。

また、日本から桜が送られてから九十周年を記念してワシントンの



桜の苗木を全米州会議より日本へ贈られることが決まり、平成一五年(二〇〇三年)に東野地区に隣接する瑞ヶ池公園に日米友好の桜が植樹されました。

現在この木は「里帰り桜」として瑞ヶ池公園の他の桜と一緒に市民の目を楽しませています。



■戦火を生き抜いた一輪のバラ  
伊丹でバラの栽培が盛んになったのは昭和三〇年頃から。バラ好きが高じて「伊丹ばら園」(現イタミ・ローズガーデン)を創設した寺西致知さんの努力と熱意によって、伊丹にバラブームが起こりました。

伊丹出身の寺西さんは、東京でサラリーマンをしていましたが、ある日ふらりとでかけた「帝国ばら協会」の「バラ展」でバラの花のあまりの美しさに魅了され、以来、趣味でバラ栽培にのめり込みました。

その後、第二次大戦が勃発。自宅の庭で丹精込めてバラを育てていた寺西さんも食料難の時代にはバラ作りをあきらめ、庭は防空壕になりました。そんな中で寺西さんは、一縷の望みをかけて最後の幾株か



を伊丹に住む弟さんの元にこっそり送ったのです。

そして終戦。伊丹に戻った寺西さんは、戦後の荒涼としたまちの中、芋畑の芋のツルの間からしっかりと花芽を出していたバラを見て驚きました。このバラこそ、自分が送ったものでした。

昭和二十四年、バラの栽培を復活させた寺西さんの元に、大阪で

の「第一回バラ展」の開催協力の依頼が舞い込みます。そしてこれを転機に、地元の人たちの協力のもと寺西さんは、父親の代から受け継いだ六百坪の土地を一面バラ園にし、その後、バラづくりに夢を抱いた若き園芸家の手によって発展していきました。

このバラ園からは、世界的に有名な新種のバラが数多く誕生しています。



# 薔薇

バラブームは今も続いています



## 【荒牧バラ公園】



世界のバラ約250種1万本が南欧風のおしゃれな園内  
一帯に咲き乱れます。伊丹生まれで世界的に名高い  
「天津乙女(アマツオトメ)」「マダム・ヴィオレ」などが植  
えられています。開花時期は5月中旬～6月中旬と10月  
上旬～11月下旬です。

●荒牧6-5-50 TEL072-772-7696(みどりのプラザ)  
http://www.city.itami.hyogo.jp/sub/03\_asobu/1\_aramaki.html  
通常9:00～17:00 休園:火曜 市バス:JR伊丹駅2のりばより阪急  
伊丹駅、桜ヶ丘経由荒牧公園行き約28分下車すぐ 有料駐車場あり



**天津乙女(アマツオトメ)**

京米で最も愛育される名花。宝塚  
スター天津乙女さんの名にちなん  
だもの。



**マダム・ヴィオレ**

紫色を好んだ美空ひばりさんが  
愛したバラとして知られている。



**ローズ・オオサカ**

世界バラ会議大阪大会2006のシ  
ンボル・ローズに選出された。



**ブルー・シャトー**

クラシックなダマスク系の香りを  
付加した大輪花。



**プリンセス・アイコ**

敬宮(としのみや)愛子内親王殿  
下の誕生を祝して名付けられた。



**ヒロシマアビール**

広島で平和への願いを込めて作ら  
れた、ピンクと黄色の大きな花。

■バラへの思いが一致して  
昭和の終わり頃、伊丹市は魅力あ  
る公園づくりに取り組んでいまし  
た。場所は植木の苗木生産が盛んな荒牧  
地区。背景に六甲・長尾山系、西に天  
神川など、都市部にある公園用地と  
しては自然に恵まれた環境にありま  
した。そこで地元の花産産業を振興  
する観点からも、本格的なバラ公園  
を作ることが決定されました。  
それから寺西致知さんをはじめ  
多くの人々の理解と協力を得て荒  
牧バラ公園が平成四年(一九九二  
年)に整備されました。  
春と秋のバラの開花時期には市  
外からも多くの人々が訪れる花の  
名所となっています。  
伊丹のバラはこうして、たくさん  
の人々の熱い思いの中から咲いて  
いき、今日に至っています。







■伊丹の特産品、南京桃  
 南京桃は一本の木に赤、白、ピンクの三色の花を咲かせます。台となる木(台木)に桃の芽を接ぎ木して人工的に栽培したもので、枝を曲げた姿が南京玉スタレのような風情があることから、この名がつけられたとも言われています。

原産は中国。日本では江戸時代に広島の子斐に伝わり、そこから全国に広まりました。南京桃という名前も地域によってまちまちで「寿星桃」や「イカリ桃」、関東地方では「あめんどうもも」とも呼ばれています。

伊丹では江戸時代末に広島から種子を持ち帰った東野村の植木職人、小西惣兵衛さんによって紹介され、東野の園芸農家を中心として盛んに栽培されました。この地域では、

接ぎ木の技術が進んでいた上に土質や気候がとくに合ったこともあり、次第に南京桃の産地として知られるようになりました。

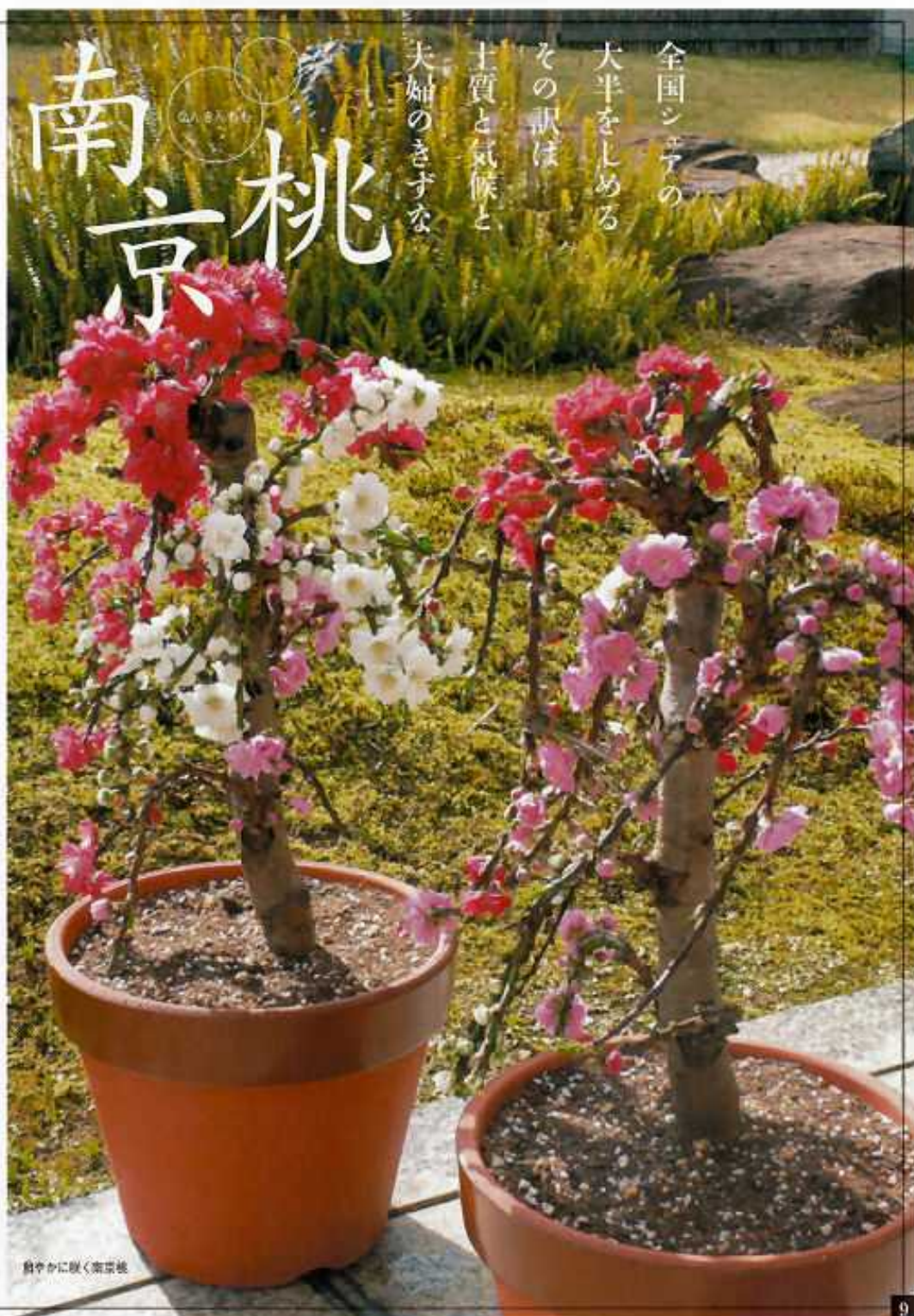
もともと花は白と赤しかなく、花びらも一重で枝もまっすぐでした。が、この地で改良され今のような色と形になったと言われています。昭和三〇年頃から急激に需要が拡大、

多い時には年間二〇万本を生産していたそうですが、押し寄せる都市化で農家も減り、現在、南京桃の生産農家は二〇軒ほどです。

それでも、この栽培技術は伊丹の園芸農家の人たちによって連綿と受け継がれ、毎年、桃の節句の頃になると約六万本の南京桃が全国に出荷されています。



伊丹市での生産



伊丹市で咲く南京桃

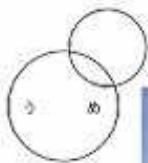
# 南京桃

全国シェアの  
 大半をしめる  
 その訳は  
 土質と気候と  
 夫婦のきずな





# 梅



梅の名所  
緑ヶ丘公園には  
春を感じに  
大ぜいの人が  
訪れます



観梅と野点の会



緑ヶ丘公園

●観梅と野点の会(緑ヶ丘公園)  
毎年2月の最終土曜日・日曜日  
午前10時～午後3時  
お茶席、梅の苗木、南京桃の頒売、甘酒・  
ぜんざいの屋台、句会、琴の演奏など  
市バス:JR伊丹駅①のりばより阪急伊丹  
駅、春日丘西経由鶴岡団地行き約15分  
鶴岡小学校前下車徒歩5分



一重寒紅



九州林州



八重緑菊



幾夜寝覚



思いのまま



文殊



春日紅



玉牡丹



緑菊



藤波枝垂れ



黒田



鴛鴦



南京桃の販売

■三年がかりで手塩に掛けて育てる  
南京桃は高さわずか三〇センチ  
余りの小さな盆栽ですが、種まきか  
ら出荷までに三年の年月を要します。  
栽培方法は、まず野生の桃の種を  
二月上旬にまき、一年かけて台木づ  
くりを行います。そして二年目、一  
〇センチぐらいの台木を育て、秋に

赤、白、ピンクの三色の桃の芽を接  
ぎ木する「芽接ぎ」を行います。そし  
て三年目になると仕上げ。夏には伸  
びて来た枝に稲藁を覆って折り曲  
げる「ねん枝」を行います。曲げる時  
期を間違えるとボキッと折れてしま  
うので高い技術が求められます。芽  
接ぎも、ねん枝も、一人の手ではう  
まく行きません。そのため、農家で  
はこうした作業を、ご夫婦で助け  
合って行います。

このように毎年、丹精込めて作ら  
れる南京桃は春の訪れを示す伊丹  
の風物詩となっています。



## 販売・お問い合わせ先

JA兵庫六甲  
伊丹営農支援センター  
〒664-0881 伊丹市昆陽1-236-2  
TEL072-772-3302

伊丹市役所農政課  
〒664-8503 伊丹市千僧1-1  
TEL072-784-8050





